

第6単元 わり算の筆算(2)A

問題番号	配点	解 答	評価規準	つまずきと指導の手だて
①	30 (各5)	① 3 ② 4 ③ 3 (あまり) 10 ④ 4 (あまり) 30 ⑤ 70 ⑥ 5 (あまり) 500	知技 何十、何百何十、何千何百、何万何千÷何十、何百の計算ができる。	わる数×商=わられる数であることを確認し、かけ算で考えられるようにする。 (例 $30 \times \square = 90$ $\square = 3$) あまりの大きさに気をつけさせる。
②	40 (各5)	① 3あまり5 ② 2あまり27 ③ 6あまり1 ④ 8あまり4 ⑤ 5あまり12 ⑥ 42 ⑦ 29あまり21 ⑧ 4あまり23	知技 2、3位数÷2、3位数の筆算ができる。	商の見当のつけ方について、繰り返し指導を行う。 ポイント1：除数を何十とみるか。 ポイント2：仮商修正の方法
③	20 (各5)	① 15あまり9 $32 \times 15 + 9 = 489$ ② 3あまり69 $243 \times 3 + 69 = 798$ (筆算は省略)	知技 3位数÷2、3位数の筆算ができる。また、その検算ができる。	除数を何十、何百とみて仮商をたてることを確認する。(被除数も何百とみて仮商をたててもよい。)検算は、習慣化するよう繰り返し指導する。
④	10	㉠、㉡ (順不同)	知技 被除数と除数に同じ数をかけても、被除数と除数を同じ数でわっても、商は変わらないことを理解している。	実際に計算をして、同じ商になることを確認させる。

第6単元 わり算の筆算(2)B

問題番号	解 答(許容)	評価規準	つまずきと指導の手だて
①	(順に) ① 20、20、一(1) ② 63 ③ 1 ④ 3、1	思判表 筆算の仕方を説明している。	仮商をたてる時、除数を何十とみて考えることを確認する。
②	7、8、9 (順不同)	思判表 商の大きさについて、除数と被除数の大小関係に着目し、考えている。	実際に、数字をあてはめて考えさせる。
③	$400 \div 25 = \boxed{16}$ $\downarrow \times \boxed{4} \downarrow \times 4$ 等しい $\boxed{1600} \div \boxed{100} = \boxed{16}$	思判表 被除数と除数に同じ数をかけても商は変わらないことを活用し、計算の仕方を工夫して考えている。	図をもとに、わり算の性質について確認する。

▶ 思考力・判断力・表現力の評価

評価	A	B	C
正答数	15~11問	10~6問	5~0問

▶ 主体的に学習に取り組む態度の評価

評価	A	B	C
選択内容	3項目とも意欲的である。	3項目ともおおむね意欲的である。	どの項目も消極的である。